
梅雨の晴れ間か

久世はるや

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

梅雨の晴れ間か

【Nコード】

N3412P

【作者名】

久世はるや

【あらすじ】

「5月、紫陽花、少年」をテーマに。
大人びた少年。

「紫陽花は雨に濡れていないと意味が無いんだ」

少年はそう言っ、つまらなそうに目の前の青い花を見た。

からりときれいに晴れた、長雨の切れ間。あちこちで洗濯物がはためいている。僕は買い物がてら散歩に出て、紫陽花が群れて咲く公園に立ち寄り、そしてこの風変わりな少年に出会った。

年の頃は中学生くらい、だろうか。制服であろう半袖シャツに紺のスラックス。スニーカーは白地に黄色のラインの入ったなかなか洒落たものだ。学生鞆を提げていた。

「……どうして？」

僕は少年に問う。少年は紫陽花から目をそらさぬまま、答える。

「似合わないから」

「……そう、かな」

「雨が降っていて、空は暗くて、うつとうしいくらいにじめじめしている。広い葉の上に蝸牛。そんなイメージがぴったりだ」

「君は、イメージが先行するタイプかい？」

「先行はさせてないよ。大切だと思うだけ」

少年の口調はあくまで淡々としている。否、ただ本当に乾いた紫陽花が気に食わない故なのか。少年はむすりとして、黒い鞆の持ち手を握りしめていた。

「……今すぐ、雨が降ればいいのに」

少年が呟く。

僕は思わず、晴れ上がった空を見上げる。

雨粒が落ちる気配はない。

僕は、至極どうでもいいことを、訊く。

「傘は持ってるのかい」

「持ってるよ」

鞆の中から少年が取り出したのは、緑色の折りたたみ傘。僕は要らぬ心配をしたらしい。と言うより、この快晴がそう簡単に覆ると思えないのだが。

「真っ赤な太陽は、紫陽花に似合っちゃいけない」

少年が、傘を開く。

「向日葵でなくちゃ」

ああ……そういうことか。

僕は納得し、そして、思い出す。

「……まだ、5月だよ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3412p/>

梅雨の晴れ間か

2010年12月10日23時57分発行